

はじめに

夏まき冬どりのキャベツ栽培において、近年の天候変化は厳しい影響を及ぼしています。特に夏場の高温と干ばつ、長びく残暑による初期生育の停滞で、小玉気味になることや、在圃性が悪くなってしまうことが増えています。また、豪雨の増加により病害の発生も増え、以前よりも栽培しづらくなっています。今回は、12月収穫に向け、栽培しやすい春系品種「さざなみ」を紹介いたします。

特性

- 12～1月収穫に向く春系品種です。
- 生育が旺盛で栽培しやすいです。また、吸肥力に優れるので、追肥の効果が出やすく、生育遅延からの回復が早いです。玉も肥大力に優れるので小玉になりにくいです。
- 玉は1.3kg程度の甲高球で、表面のわが強く残ります。球色も明るい緑色で光沢が強く、春系品種らしいおいしそうな外観となります。
- 草姿は立性で、玉が直接霜や風の影響を受けにくく、品質が劣化するこ



New!

新品種のご紹介カネコ種苗(株)
ぐにさだ育種農場

品田 智隆

**生育が旺盛で、
玉が大きくなりやすい春系品種****さざなみ (KAK-828)**(カネコ交配)
キャベツ**作型表**

	7	8	9	10	11	12	1
中間地	●	×			■		
	●	×			■		
暖地	●	×			■		
	●	×			■		

●:播種 ×:定植 ■:収穫

とが少ないです。またアントシアニンの発生も遅い品種です。

黒腐病に比較的強く、安心して栽培が可能です。萎黄病にはAタイプの抵抗性を有します。

意してください。緩効性肥料の利用や、追肥(年内収穫では追肥1回、1月収穫では2回程度)を行なうようにします。

霜が降りる日が続くと玉表面が傷むことがありますので、1月中旬以降の収穫は無霜地帯に限ります。

● 霜核病対策として、年内に予防効果の高い殺菌剤の散布を行います。

● 黒腐病に比較的強く、安心して栽培が可能です。萎黄病にはAタイプの抵抗性を有します。

栽培ポイント

- 初期生育でつまずくと、結球時の裂皮や在圃性の低下を引き起こします。造成地や赤土などの地力の低い土地では、元肥を通常栽培よりも1～2割程度増やすことで生育が安定しやすくなります。
- やや多肥を好み品種です。本来の特性を發揮するためにも、肥料切れには注

食味良好

葉肉は少し厚めですが、組織が硬くなりにくいのでサクサクとした食感です。厚めの葉肉は水分を多く含み、パサパサした食感になりにくいです。冬の寒さの中で、甘味が増すおいしいキャベツです。